

木育 MOKUIKU かわら版

知ろう、使おう、広げよう、みやぎきの木



木に触れて、
木と遊び、
木を学ぶ

Vol.
5

Contents

Page1	宮崎工業高校インテリア科での木育教室
Page2	平成 29 年度木育ネットワーク部会勉強会
Page3	平成 29 年度木育ネットワーク部会勉強会
Page4	高校生木育デザインプロジェクト もくもくパーク夏祭り

宮崎工業高校インテリア科での木育教室

1 年を通し、4 回に分けて生徒と保護者に向けて、木育の普及啓発を目的として実施します。

地域の循環資源である木材をテーマに伐採現場、木材加工企業等への現地見学会を開催しました。

保護者向け現地研修会

日 時：平成 29 年 8 月 21 日（月）8:00 ～ 15:30

見学場所：都城木材㈱、宮崎県木材利用技術センター、
ランバー宮崎協同組合

参加者数：10 名（内、保護者 7 名、就職支援指導員 1 名）

生徒向け林業・木材産業見学ツアー

日 時：平成 29 年 10 月 11 日（水）8:30 ～ 16:30

見学場所：㈱松岡林産伐採現場、都城木材㈱、ランバー宮崎
協同組合、宮崎県木材利用技術センター

参加者数：40 名（生徒数）

都城木材㈱見学



㈱松岡林産伐採現場



都城木材㈱見学



ランバー宮崎協同組合



宮崎県木材利用技術センター



ランバー宮崎協同組合

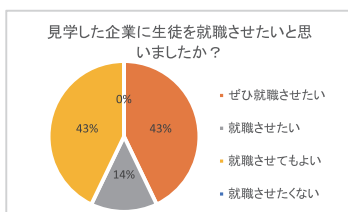
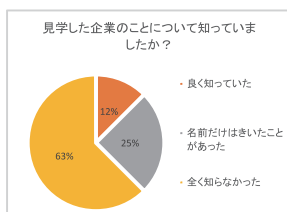


今回は 2 年生の生徒が参加しました。各現場の仕事を真剣に聞き取る姿が印象でした。

伐採現場では、生徒の代表が実際に作業で使っている高性能機械（グラブ、プロセッサ）の乗車体験を行いました。

● 保護者向けアンケートより ● <一部省略あり>

- ・県内にこのような企業、研究施設があることに驚きました。木材を乾燥、加工するだけでなく、山、建築物、災害、世界情勢のことまで考えていらっしゃることも勉強になりました。
- ・色々な企業の話を知ると早い段階から授業への取り組みも変わってくると思います。
- ・親ももっと企業や宮崎を知る機会を持てたらと思った。
- ・とても良い企画だと思います。自宅に帰って娘と今度の参考にしたいと思います。
- ・他のも気になりますので、また機会があれば参加したいです。



● 生徒のノートより ● <一部省略、加筆あり>

- ・今まで木材にふれることはあったけれど、木材（板）などになるまでの工程を初めて知ることができ、木材（板）1 枚になるまでに、とてもたくさんの工程が必要で、多くの人が関わっているということを知りました。これからの生活に活かしたり感謝の気持ちを忘れずにいようと思います。
- ・各現場で様々な機械を使って効率よく大量生産しながらも、品質の良いものを最後に届けるためには、人の手が欠かせないのだと思いました。



MOKUIKU

平成29年度 木育ネットワーク部会勉強会

木について、子どもについて、おもちゃについて、
今よりもちょっとだけスキルアップ♪

木に触れて、
木と遊び、
木を学ぶ

本年度は、現在の知識、技術をさらに向上できる勉強会を企画、実施しています。

子どもの発達とおもちゃ

講師：宮崎県立宮崎看護大学 甲斐 鈴江氏
日時：平成29年8月30日（水）13:00～16:00
場所：宮崎県立宮崎看護大学
参加者：21名



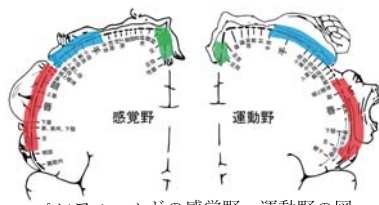
甲斐 鈴恵（かい すずえ）

宮崎県立看護大学 小児看護学講師
研究テーマとして、おもちゃを媒体とした看護職者の育児支援について、など。日本グッド・トイ委員会の「おもちゃコンサルタントマスター」を取得。おもちゃコンサルタント講師。グッド・トイ委員会宮崎支部会長として県内のおもちゃコンサルタントと共に子育て支援活動を行う。

子どもの脳と体がどのように発達していくのか、また、適切なおもちゃ“あそび、とはどのようなものなのかをお話いただきました。

子ども期における発達の節目と脳の発達

赤ちゃんの「泣く」表現に保護者が適切な対応をすることで、赤ちゃんは満足感を得、“情”を育みます（1才頃）。情が育まれた後、知的好奇心が活発に働き“知”が芽生えます（2才頃）。知を豊かにするのに“意”が働きます（3才頃）。その後、相手の立場が考えられるようになり（4才頃）、6才では日常生活の自立が出来ます。10才になると、もう一人の自分が完成し、14才で大人へと成長していきます。



ペンフィールドの感覚野・運動野の図

顔に髪の毛1本でもついてると気になりますが、乳児の皮膚はとても薄いので刺激を受けやすいのです。ですので、肌の温かさや土のぬるぬるした感覚などが刺激になります。また、足を動かすより手を動かす方が運動になります。指3本動かすだけでもいい運動になります。

左図は、体の各部位の機能を受け持つ範囲が、大脳でどのくらいの割合を占めているかを示しています。顔、舌や唇、手や指の面積が広いのが分かります。それだけ、繊細な部分ということです。

あそび力

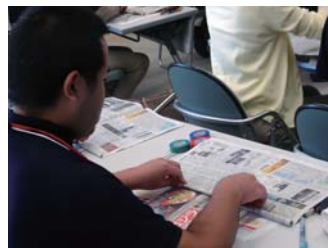
人生の中で、最も遊ばなくてはいけない年齢が、0才～6才の前期こども期と、75才～の後期高齢期です。情を育む時期には、心地よい刺激を与えるのが良いです。30センチ以内の距離で優しい声と温かい触れが大事です。いないいないばあなどの隠れる、見えるの繰り返しだったり、おもちゃでおすすめなのは目で見て色彩豊かなもの、素材が安心な物、心地よい音がするものが良いです。幼児期前期は、体を使った動きを促すもの、色彩豊かな物、知的好奇心を揺さぶるもの、創造性を育むものが好ましいです。幼児期後期になると、知的好奇心を揺さぶるもの、創造性を育むもの、手の細かな動きを育むもの、ゲーム性（勝負）の要素を含むものがおすすめです。1つのおもちゃで10通りの遊び方を考え、発想豊かにさせることも大事です。

良いおもちゃの6つのポイントは、1. 心地よい音 2. 動きのバリエーション 3. 感触のよさ 4. 適度な大きさや重さ 5. 美しい色と形 6. 丈夫さと壊れにくさ そして、すべてに共通することは、大人と一緒に楽しみ、おもちゃを通して会話が弾み、子どもの情緒を豊かに育むことです。

座学の後には、新聞紙を使っていろんな遊びを行ったり、2017年のグッド・トイで遊びました。



まずは指の運動



新聞紙を棒状に丸めます



丸めた新聞紙にビニールテープを巻き付けます



手のひらに乗せてバランスを取ります



参加者で輪になって、隣に移動するゲームです。棒が倒れないような気遣いが大切（^-^）



2人で向かい合い、相手の棒の上に横向きの棒を置きます。落ちないように何回できるか？！



2つの輪（←これも新聞で作った棒を輪っかにしたものです！）を、1つは手前、1つは向こう側に回す技！



会場には2017年度のグッドトイが並びました！

● 参加者の感想より ●

<一部省略・加筆あり>

- ・身近なもの（新聞紙、紙コップなど）や市販のおもちゃでも遊び方の工夫で夢中になれる遊びの楽しさを改めて感じました。
- ・大人と一緒に楽しみ、おもちゃを通して会話が弾み、子どもの情緒が育まれることが分かりました。
- ・子どもの発達とおもちゃについて勉強させてもらい、再確認ができ良かったです。
- ・子どもの発達に合わせたアプローチによって、おもちゃの楽しさが伝わり、発育にも良い影響があることが分かりました。
- ・子どもの発達にあった、脳を刺激したり遊び力を引き出してくれるおもちゃが大事だと感じました。

子どもが遊べる木のおもちゃ

講 師：宮崎国際大学 守川 美輪氏

日 時：平成 29 年 9 月 5 日(火) 19:00 ～ 21:00

場 所：原口こども園

参加者：22 名



守川 美輪（もりかわ みわ）

宮崎国際大学准教授
鳴門教育大学大学院修了。研究課題は、木版
凹版。幼児のためのおもちゃ制作。授業のた
めの教材研究。

現在の取り組みを通じ、感じていることなどをお話いただきました。

可動式玩具

固定されていない玩具のことで、玩具でなくても例えばタイヤやお風呂の桶などでも園庭に置いておくだけで子どもたちがどんどん遊びます。今、C型積み木を作っていますが、これは、人形遊びのベッドや椅子になったり、積み木として積み上げることもできます。また、別のパーツを持ってきて入れたり、など、いろんな遊びを子どもが考えます。このような、子どもが自分で遊びを生み出せるような玩具が良いのでは？と思っています。

また、子どもは滑り台やリズム遊びなどのような、傾きや加速度を感じる遊びを求めています。これは聴覚を鍛えることになるのですが、放っておいても遊びながら鍛えているということです。この感覚が鍛えられるものとして「箱ぼっくり」というものを作っています。

これらの玩具を木で作っています。木を使うことで、理料的な視点で遊ぶこともできます。例えば1枚の板でも、そのままだと水に浮いても荷物を載せると沈む、節は枝があった場所、などを伝える事ができます。宮崎県は杉の生産高日本一ですので、保育園や小学校にも木を使うきっかけが広がれば良いな、と思っています。

座学の後には、実際に板から数種類の玩具を作りました。



ノコギリ挽きから始めます



曲線は糸ノコギリで



切った後はひたすら磨きます



ボンドでつけて完成間近！

● 参加者の感想より ● <一部省略・加筆あり>

- ・遊ぶ楽しみもありますが、作る楽しみを学ぶことが出来ました。
- ・五感を養うという言葉に自分で製作してみてその通りだと思った。自分の想像力や発想の転換で色々なものに変わり楽しかった。

木工のいろは教室 ①

講 師：宮崎大学 藤元 嘉安氏

日 時：平成 29 年 9 月 27 日（水）13:30 ～ 16:00

場 所：宮崎大学

参加者：13 名

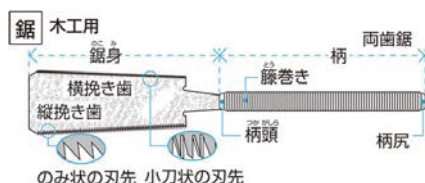


藤元 嘉安（ふじもと よしやす）

宮崎大学 教育学部教授
1989 年～2001 年 九州大学農学部助手
2001 年～2011 年 宮崎県木材利用技術セン
ター木材加工部長
2011 年から現職

木工のいろは教室として、ノコギリの挽き方、カンナの使い方、木製品の組み立て方、と3回に分けて実施予定です。第1回目として、ノコギリの歴史から、挽き方の基本姿勢など学んだあと実践しました。

のこぎり



木材は多孔質で繊維が縦方向に並んでいる。両刃ノコギリには、横挽き用と縦挽き用の刃があり、刃先の形も異なっている。

ノコギリ挽きのポイント

- ①材料の固定
…クランプの利用、万力の利用、治具の利用
- ②挽き始め
…あて木を使う、親指の第1関節が爪を当てる、刃のものと小さい歯を使う
- ③ノコギリ挽きの仕方
…のこ身と顔の中心が一致するように、のこ身を真上から見る、野書き線が残るように挽く、挽く時に力を入れ押す時は力を抜く、ノコギリ屑は常に吹き払う、刃渡り全体を使う
- ④挽き終わり
…ゆっくり挽く、残りの部分を人に持ってもらうか片手で保持する



学生も講師となり、参加者にアドバイスを行っていました。



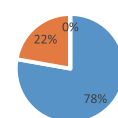
縦挽き、横挽きとひたすら挽きました！

● 参加者の感想より ● <聞き取り>

- ・木育サポーター講座を受講したが、自分ではなかなか木工をする機会がないので、いい機会になりました。
- ・普段は、自分のやり方でやっているが、今回アドバイスをもらい知識の足しにもなり学ぶことが出来ました。

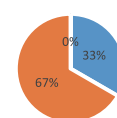
● 木工作に対してのアンケートより ●

実技の説明は分かりやすかったですか



● よく分かった ● 分かった ● 分かりにくかった

木工作の知識・技術は向上しましたか



● 大いに向上した ● 向上した ● あまり向上していない

高校生木育デザインプロジェクト

日時：平成29年10月9日(月・祝) 10:00～14:00

場所：KITEN 3階 みやぎき NPO・協働支援センター 参加者：生徒30名

デザイン活動および木育活動に関心のある高校生を対象として、宮崎県の循環資材である木材を使ったおもちゃを作るプロジェクト「高校生木育デザインプロジェクト」の第2回がこの度行われました。5つのグループに分かれ、テーマ『①子どもたちに環境(木)の大切さを伝える ②使って面白い ③形、色、遊び方は自由』で、「積み木」を考えてもらいました。その後、グループごとに考えたアイデアを発表しました。



今回は、宮崎工業高校4グループ、都城西高校1グループ、おまけの大人グループ1グループに分かれました。宮崎大学の学生も宮崎工業高校のグループに入り、一緒に考えてもらいました。発表は、模造紙での発表とパワーポイントでの発表とありました。



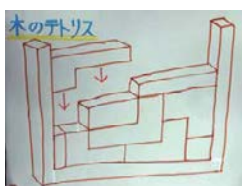
『あな』

ダボで立体をつなぎ合わせたり、そのままでも積み上げられる積み木



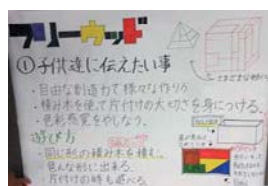
『ことばあそび』
『立体的な九州』

ことばあそびができる積み木。九州各県が覚えられたい積み木？パズル？



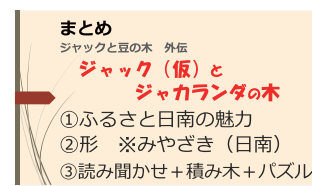
『木のテトリス』

枠があり、いろんな形の積み木を最終的に四角形にする積み木。



『フリーウッド』

四角や三角の立方体になる積み木。片付け用の箱の底には色がついている。



『ジャック(仮)とジャカラダの木』

オリジナルのお話積み木。登場人物を積み木にする。お話も絵本か紙芝居で制作。

発表後は実際に日南市子育て支援センター「ことこと」に設置することを考えた具体的な質問などが大人から出ました。12月3日(日)最終プレゼンテーションの予定です！

もくもくパーク夏祭り

日時：平成29年8月8日(火)～15日(火) 10:00～20:00

場所：宮崎山形屋5階催事場

最終日は17:00終了



今年も開催された、宮崎山形屋でのイベント『もくもくパーク夏祭り』。昨年より多い来場者で賑わい、木の遊具やショップを楽しむ様子が見られました。また、木育サポーターと宮崎工業高校インテリア科の生徒が、日替わりでワークショップを担当し、手厚いサポートのもと作品を完成させ、参加者も満足の様子でした。

事務局からのお知らせ

木のおもちゃの導入や木育スペースの整備等を実施される場合は、支援メニューがありますので、事務局へご相談ください。

木育ネットワーク部とは

豊かな森林を次世代に引き継いでいくには、県民一人ひとりが、木材の良さや利用することの意義について理解と認識を深め、県民全体で県産材の地産地消に取り組むことが重要であることから、みやぎき木づかい県民会議を平成25年2月に設置し、木づかい運動を進めてきました。

木づかい運動を進める上では、子どもたちを中心に木に触れ親しむ機会や、森林・林業、木材、資源循環について分かりやすく伝える機会を創出する木育活動を進めることが非常に大切であることから、木育に積極的に取り組む企業・団体・行政等の参画による木育ネットワーク部を設置いたしました。

お問い合わせ

みやぎき木づかい県民会議 木育ネットワーク部 事務局

宮崎県森林林業協会・宮崎県山村・木材振興課みやぎきスギ活用推進室

〒880-0802 宮崎市別府町3番1号 宮崎日赤会館2F TEL: 0985 (27) 7682 / FAX: 0985 (25) 2398

※木育かわら版の発行には「森林環境税」が活用されています。